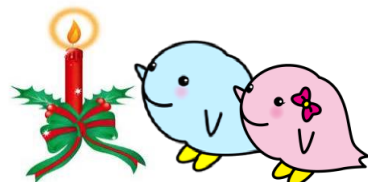




ふたば診療所通信



医療法人社団 支心 事務局 <http://www.shishinn.com>
〒085-0008 釧路市入江町9番14号
tel0154(23)3001 fax0154(64)6611

facebook随時更新しております

2014年12月15日 (第3号)

納得・安心・満足のケアを目指して

「病気があっても自分らしく家で暮らしましょう。」
「あなたらしく幸せに暮らして下さい。」
そう伝えたくて、在宅医療を広めたいとずっと思ってきました。

開業して5年経った今でもケアマネや病院の相談員、時には病院の医師から「往診医」と呼ばれる事が少なくありません。
「病状を安定させ、ご本人や家族が辛くなって、あるいは不安になって時には苦しんで往診を求める事をいかに少なくするか」在宅医療を支援する診療所として「診療の柱は訪問診療です」と何度も伝えてきたつもりですが今のところ、あまり効果はないようです。
これまでならこう考えて地団駄を踏んでいるばかりでしたが、最近医療や介護、福祉のいわゆる専門職と呼ばれる方々と仕事以外の場でお話できる機会がたくさんあり、ちょっと見方が変わりました。



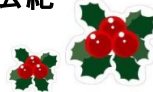
荒井チエ子様のお宅にて、診療中の先生の背中にピョンと飛び乗った猫ちゃんは「だいちゃん」みです。

在宅介護の専門職でさえ病気や障がいを持って在宅で暮らす事への不安が強く「何があっても医療が受けられる」という往診の保証を強く求めているのでしょう。その気持ちが「往診医」という表現につながっているのだろうと考えるようになりました。

支心では「納得・安心・満足」の在宅支援を目指しています。
「納得・安心・満足」のために支心では全職員に情報収集と情報分析と計画立案(アセスメント・プランニング)の重要性を伝え、そのための訓練を日々行っております。
ケアマネジャーに限らず全職員にです。
介護にかかわらない職員も含めて全職員で行われる会議でも、ふわりの入居者に限らず支心の利用者さんの情報を共有し、ケアについて話します。
お亡くなりになられた後、生前を偲び、自分たちのケアを振り返ります。
まだまだ未熟な自分たちを知り、改め、高め、利用者の皆様にいつか「笑顔で満足してるよ」そう言っていた日を目指して努力を重ねています。



2014. 12. 10 谷藤 公紀



元気に冬を乗り切ろう！看護師からのアドバイス



編み物をする森下所長と太田看護師

寒い冬も健康に過ごす事が出来るように、お家での暮らしの中で工夫出来る事をほんの少しお伝えできたらと思います。
昔から言われているように風邪、インフルエンザ予防のために手洗い、うがいを行う事は大切な習慣だと思います。また咳やくしゃみをする際はハンカチやティッシュで口を覆いましょう。持ち合わせていなければ肘の内側の部分で口をふさいで感染を防いで下さい。加湿器を使う、濡れた衣類を干すなどしてお部屋の湿度を保つ事も重要です。また冬はノロウイルスが流行する季節でもあります。2枚貝などは加熱したものを食べる事をお勧めします。突然の下痢・嘔吐などはノロウイルスを疑って初期対応を行って下さい。汚物、吐物を処理する際は使い捨て手袋やガウン、次亜塩素酸での消毒などで感染拡大を防いで下さいね。
また、年末、年始は医療機関、薬局などもお休みに入りますので、事前にお薬の残数確認や頓服の有無の確認を行って、いざというときに困らないよう備えましょう。
それでは、皆様良いお年をお迎え下さいませ。



看護部一同より





ご家族様からのおたより



父(故・鈴木壽也)が住み慣れた自宅に帰る事が出来たのは2014年7月18日の正午でした「家に帰りたい」「庭を見たい」「孫達に逢いたい」という父の願いを叶えてあげたいという谷藤先生やスタッフさんの計らいでした。その時東京で仕事をしていた夫の返信メールでは「えええ～！まさか、凄い！信じられないほどビックリしています。人を大切にしてくれるふわりに感謝。」と家族全員が感動しました。

自宅に戻り落ち着いた頃、孫達も東京から駆け付けて、髭を剃ってあげたり、話しかけたり様子を見に来た谷藤先生と一緒に愛用の椅子に座らせてあげたり、父も大忙しでした。..こうして父の願いをすべて叶える事ができました。特に孫達が谷藤先生と一緒に父を椅子に座らせたこと、若者にとって素晴らしい経験でした。気がつくと、父の目頭には涙がたまっていました。拭いても拭いてもたまりません。最後の最後、涙で気持ちを表していたのです。私たちは父の傍らで食卓を囲みました。父がいつも私達を待っていた時のように釧路の幸を堪能しました。父は皆に囲まれ静かに静かに、ひとつづつ丁寧に呼吸を止めてゆきました。「蟹、ウマ～い！！」等という孫達の声を聞きながら...



体験記を寄せて下さった安藤様(前列右)奥様、お孫さんとふわりスタッフ・先生と共に記念撮影する

父を看取らせていただけたこと、父も家族もこの上なく幸せでした。明るく素晴らしいお別れの時間を作って下さった谷藤先生皆様に心から感謝の気持ちをお伝えします。どうもありがとうございました。

❄️❄️❄️❄️鈴木壽也様担当介護員 鈴木陽子の振り返り❄️❄️❄️❄️

鈴木様は退院後一度も家に帰る事なくふわりへ入居されました。当初は体力もなく15分程しか起きて居られませんでした。「家が気になるから一度様子を見に行きたい。」と話されていました。...1年が過ぎた頃にはリハビリの成果もあり1時間程の離床が出来る様になりホールで新聞を読んだりスタッフと将棋を楽しんだり寝たきりの生活から変化していきました。クリスマス会などの行事にも参加出来る様になり、感激して涙を流す姿も度々見受けられ、表情も豊かになっていくに従い何かある度に「家はどうなっているのかな？妻はひとりで大丈夫かな？」と心配されていました。お正月に帰省した娘さんに鈴木様の「家の様子を見に行きたい。」という想いと「私達もお手伝いします。」という事を伝えると「家に行ける状態では無いと思っていたので嬉しいです。是非お願いします。」というお返事を頂きお盆に帰省する事が決定しました。その事を鈴木様に伝えると「ありがとう、ありがとう。」と涙を流して喜ばれていました。しかし、その頃と時を同じくして鈴木様は徐々に体調を崩される事が多くなり6月頃からはベットから起き上がる事も困難になってきました。先生からは「この夏は越せないでしょう。」というお話もあり、7月には東京の娘さんが来釧され、鈴木様の部屋で付き添われる日が続きました。その間にスタッフで話し合い「鈴木様の帰省の想いを叶えたい。帰るなら今しかない。」と結論に達し谷藤先生の許可を得て、その翌日に自宅に帰る事ができました。家族が出迎える中、自宅へ帰って来た鈴木様は少し驚いたような嬉しいような表情をして周囲を見まわしていました。その数時間後..鈴木様はご家族に見守られながら帰りがかった自宅にて安らかな眠りにつかれました。

鈴木壽也様はホスピス・ケアふわりのオープン日に入居して下さいました。ホスピス・ケアふわりの歩みはずっと見守って来て下さいました。これからも天国でご家族様と我々の事を見守っていて下さいね。たくさんの愛情とユーモアをありがとうございました。



キッズロケットがやってきた！！



平成26年11月8日(土)「釧路子どもミュージカルキッズロケット」の皆様がホスピス・ケアふわりに来て下さいました。子どもさんのパワーは素晴らしいですね。表情が乏しかった方が笑ってくれたり一緒に食事をしたところ普段食べない方が食べてくれたりと嬉しい驚きがたくさんありました。子ども達の礼儀の正しさも素晴らしかったです。代表の金安潤子先生は人として大切な事もしっかり伝えていらっしゃるのですね。12月21日には釧路市民文化会館でキッズロケットクリスマスコンサートが行われます。ふわりの入居者さまも応援に行ってきます！今から再会が楽しみです！

<編集後記>

「もういくつ寝るとお正月～」と子どもの頃、今頃になると歌っていたものですが、クリスマスになったらケーキも食べて、プレゼントも貰って..そしてお正月になったら普段は仕事のお父さんも家に居て、晴れ着を着て、御馳走を食べて、お年玉を貰って..とワクワクしながら過ごしたものです。この「ワクワク感」が人間にとってとても大切な事だと最近身に染みて感じる事が増えました。遙か彼方の夢も良いですが、「あともう少しで〇〇さんに会える」「明後日の御飯は大好物のちらし寿司だ。」この手の届く楽しみを継続していく事。これが深刻な病状にある方の生きる希望になったりする例をたくさん見て来ました。..皆さんは「ちょっと先にあるワクワクすること」ありますか？無ければ是非作ってみて下さいね。

それでは良いお年をお迎え下さいませ。

東

